ガス燈（1944）

GASLIGHT

メディア 映画
ジャンル サスペンス
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 114分
初公開日 1947/06/03
公開情報 ＭＧＭ＝セントラル

【解説】

ロンドン、ソーントン街。ガス燈の点る頃、この町を後にしイタリア留学に向かうポーラ（バーグマン）。彼女の育て親である、名歌手の誉れ高き叔母は何者かに殺され、事件は未解決。傷心のまま旅立った彼女だったが、新天地で恋をし、声楽の勉強を諦め、その相手、作曲家のグレゴリー（ボワイエ）と夫婦になる。彼は彼女の育った家に関心を持ち、そんな落ち着いた環境で暮らしてみたいと言うので、ポーラも忌わしい記憶を拭い去って、ロンドンで再び生活を始めるが、叔母のピアノに男名前の差出人の手紙を見つけて以来、物忘れや盗癖が目立ち始めたと、夫は指摘する。部屋のガス燈も奇妙にちらつき暗くなる。それを感じるのは自分だけのようだ。本当に狂ってしまったのか……。彼女の不安は高まる。夫と共に出かけたロンドン塔ですれ違った男に会釈され、思わず微笑み返すポーラ。しかし、彼は知らない人だ。が、観客にはすぐ、これが彼女の叔母に可愛がられた警部キャメロン（コットン）だと分かる。彼は彼女と夫の様子を見て、迷宮入りした叔母の件の再調査に取りかかるが……。謎解きよりグルーミーなキューカーの雰囲気演出に見どころのある作品で、４０年の同名英映画のリメイク。バーグマンのニューロティックな演技のうまさ（アカデミー主演女優賞受賞）もあり、あらかじめ分かっていることを思っていた通り辿ることが快感にもつながる。Ａ・ラズベリーの淫蕩な感じのメイドが謎めいて、いい効果をあげている。筋に直接関係ないが、叔母が最も大事なファンにあげたと言う、作曲家グノーのサイン入りの手袋の片方の所在に関する挿話が微笑ましい。

【クレジット】

監督	ジョージ・キューカー	George Cukor	
製作	アーサー・ホーンブロウ・Ｊｒ	Arthur Hornblow Jr.	
原作	パトリック・ハミルトン	Patrick Hamilton	
脚本	ジョン・ヴァン・ドルーテン	John van Druten	
	ウォルター・ライシュ	Walter Reisch	
	ジョン・Ｌ・ボルダーストン	John L. Balderston	
撮影	ジョセフ・ルッテンバーグ	Joseph Ruttenberg	
音楽	ブロニスラウ・ケイパー	Bronislau Kaper	
出演	シャルル・ボワイエ	Charles Boyer	グレゴリー
	イングリッド・バーグマン	Ingrid Bergman	ポーラ
	ジョセフ・コットン	Joseph Cotten	キャメロン
	メイ・ウィッティ	May Whitty	
	アンジェラ・ランズベリー	Angela Lansbury	
	テリー・ムーア	Terry Moore	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.